



2023年7月28日

各 位

会 社 名 日糧製パン株式会社  
代表者名 代表取締役社長 吉 田 勝 彦  
(コード：2218、札証)  
問合せ先 取締役経理本部長 那 須 英 幸  
(TEL. 011-851-8188)

(訂正・数値データ訂正)「2023年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)」の  
一部訂正について

当社は、2022年7月28日に公表しました「2023年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)」に一部訂正すべき事項がありましたのでお知らせいたします。また、数値データにも訂正がありましたので訂正後の数値データも送信いたします。

記

1. 訂正の内容と理由

訂正内容と理由につきましては、別途、本日(2023年7月28日)付「過年度の有価証券報告書等の訂正報告書の提出及び過年度の決算短信等の訂正に関するお知らせ」にて開示しておりますのでご参照ください。

2. 訂正箇所

訂正箇所は\_\_\_\_線を付して表示しております。なお、訂正箇所が多数に及ぶことから訂正事項については、訂正後のみ全文を記載しております。

以 上



## 2023年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2022年7月28日

上場会社名 日糧製パン株式会社 上場取引所 札  
 コード番号 2218 URL <http://www.nichiry-pan.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉田 勝彦  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理本部長 (氏名) 那須 英幸 (TEL) 011-851-8188  
 四半期報告書提出予定日 2022年8月12日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2023年3月期第1四半期の業績 (2022年4月1日～2022年6月30日)

## (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	4,184	2.3	46	27.1	54	26.3	33	△2.5
2022年3月期第1四半期	4,090	3.7	36	△7.6	42	△4.8	34	△16.7

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第1四半期	16.02	—
2022年3月期第1四半期	16.43	—

## (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第1四半期	14,030	4,857	34.6
2022年3月期	14,292	4,860	34.0

(参考) 自己資本 2023年3月期第1四半期 4,857百万円 2022年3月期 4,860百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	—	—	15.00	15.00
2023年3月期	—	—	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	15.00	15.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2023年3月期の業績予想 (2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	17,400	1.4	280	11.9	280	8.5	170	13.3	81.22

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2023年3月期1Q	2,103,948株	2022年3月期	2,103,948株
------------	------------	----------	------------

② 期末自己株式数

2023年3月期1Q	10,760株	2022年3月期	10,737株
------------	---------	----------	---------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

2023年3月期1Q	2,093,196株	2022年3月期1Q	2,093,401株
------------	------------	------------	------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.2「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 経営成績に関する説明	P. 2
(2) 財政状態に関する説明	P. 2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 2
2. 四半期財務諸表及び主な注記	P. 3
(1) 四半期貸借対照表	P. 3
(2) 四半期損益計算書	P. 5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	P. 6
(継続企業の前提に関する注記)	P. 6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 6
(追加情報)	P. 6
(セグメント情報)	P. 6

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間(2022年4月1日～2022年6月30日)における北海道の経済環境は、新型コロナウイルス感染者数の減少に伴い、経済活動の制限が緩和され持ち直しの動きがみられた一方、国際情勢の緊迫化や円安の進行の影響により資源や原油が高騰しており、先行き不透明な状況が続きました。当業界におきましては、主原料の小麦粉や糖類等の原材料費、天然ガス、電気等のエネルギーコストの高止まりに加えて、お客様の節約志向の高まりもあり、厳しい経営環境となりました。

このような情勢下におきまして、当社は、「おいしく、北海道らしく。」の方針と、日々お客様へ安全・安心な製品を安定して供給する使命に基づき、科学的根拠に基づく感染防止対策に全社を挙げて取り組みつつ、日常業務の着実な遂行に努めてまいりました。また、生産、販売、管理の各部門における業務の見直しや諸経費の抑制に努め、経営基盤の強化に取り組んでまいりました。

製品別の売上状況につきましては、食パン部門は、「イギリス食パン」や「The Takasui」シリーズの新製品が寄与しましたが、主力の「絹艶」、バラエティブレッドや低価格食パンが伸び悩み、前年同期の売上を下回りました。菓子パン部門は、「The Takasui」シリーズのドーナツ新製品や、2極化に対応した「ラブラブサンド」の新製品が寄与したほか、値ごろ感のある複数個入り製品等を積極的に拡販し、前年同期の売上を上回りました。和菓子部門は、主力の蒸しパンと北海道産原料を使用したロングライフ製品「福かまど」シリーズが伸長するとともに、「なめらかな口どけ」を追求した新製品「しっとり極饅頭」の寄与もあり、前年同期の売上を上回りました。洋菓子部門は、「北海道牛乳のレアチーズケーキ」シリーズ、シフォンケーキ等のチルド製品が好調に推移しましたが、「クラフトベイク」シリーズ等のスナックケーキ類の伸び悩みもあり、前年同期の売上を下回りました。調理パン・米飯部門は、主力の「絹艶サンド」を積極的に拡販したほか、おにぎりや丼もの製品が堅調に推移し、前年同期の売上を上回りました。

以上の結果、当第1四半期累計期間の業績につきましては、売上高は4,184百万円(対前期比102.3%)、営業利益は46百万円(対前期比127.1%)、経常利益は54百万円(対前期比126.3%)、四半期純利益は33百万円(対前期比97.5%)となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

当第1四半期会計期間末における資産合計は14,030百万円で前事業年度末に対し262百万円減少しました。流動資産は4,473百万円で主に現金及び預金が193百万円、売掛金が111百万円減少し、商品及び製品が80百万円増加した結果、前事業年度末に対し215百万円減少しました。固定資産は9,556百万円で主に有形固定資産が35百万円、投資有価証券が4百万円、繰延税金資産が16百万円減少した結果、前事業年度末に対し46百万円の減少となりました。負債合計は9,173百万円で主に長期借入金(1年内返済予定含む)が92百万円、未払法人税等が70百万円、賞与引当金が96百万円減少した結果、前事業年度末に対し258百万円減少しました。純資産合計は4,857百万円で主に利益剰余金が2百万円増加し、その他有価証券評価差額金が5百万円減少した結果、前事業年度末に対し3百万円減少しました。

この結果、当第1四半期会計期間末における自己資本比率は34.6%、1株当たりの純資産は2,320円50銭となりました。

### (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しといたしましては、北海道経済は、各種政策の効果や社会行事の再開などで個人消費の回復が期待されるものの、新型コロナウイルス感染症や国際情勢の動向による影響につき見通しが立たず、厳しい状況が続くものと予想されます。当業界におきましては、お客様の節約志向が強まり消費が伸び悩むなか、主原料の小麦粉価格の大幅な上昇に加え、油脂や包材等の原材料費やエネルギーコストの高騰が今後も見込まれ、経営環境は厳しさを増すものと予測されます。

このような情勢下におきまして、当社は「おいしく、北海道らしく。」の方針のもと、生産・販売が一体となり各部門の小委員会活動を活用して製品施策・営業戦略を着実かつ迅速に実践・実行・実証するとともに、全社を挙げて各現場に即した5S活動を徹底し、業務の効率化と安全安心な職場づくりの両立といった内部管理の充実に努め、経営課題に着実に対処し、業績向上をめざしてまいります。各種コストが高騰するなか、引き続きお客様へ安全・安心な製品を安定して供給するため、本年7月から、食パンと一部の菓子パンの価格改定を実施しました。今後も、多様化するお客様のニーズに対応した製品開発を積極的に取り組み、売上向上に努めてまいります。

なお、2023年3月期通期に関する業績予想につきましては、2022年5月13日に公表した内容から変更はありません。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当第1四半期会計期間 (2022年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,189,824	1,996,150
受取手形及び売掛金	2,140,334	2,029,201
商品及び製品	45,512	125,671
仕掛品	26,662	36,094
原材料及び貯蔵品	223,285	221,726
その他	64,338	65,282
貸倒引当金	△187	△133
流動資産合計	4,689,771	4,473,993
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	2,409,821	2,391,211
機械及び装置(純額)	1,466,285	1,450,611
土地	4,662,405	4,662,405
その他(純額)	258,904	257,715
有形固定資産合計	8,797,416	8,761,943
無形固定資産		
その他	66,460	61,396
無形固定資産合計	66,460	61,396
投資その他の資産		
投資有価証券	538,081	533,436
投資不動産(純額)	43,800	43,800
繰延税金資産	143,966	127,588
その他	13,512	28,772
貸倒引当金	△251	△194
投資その他の資産合計	739,108	733,403
固定資産合計	9,602,986	9,556,743
資産合計	14,292,757	14,030,737

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当第1四半期会計期間 (2022年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,993,260	2,050,233
短期借入金	650,000	650,000
1年内返済予定の長期借入金	883,276	889,500
未払法人税等	89,357	18,707
賞与引当金	198,046	101,542
その他	1,140,857	1,079,561
流動負債合計	4,954,797	4,789,544
固定負債		
長期借入金	1,652,500	1,553,500
再評価に係る繰延税金負債	1,190,579	1,190,579
退職給付引当金	1,542,752	1,545,294
役員退職慰労引当金	84,524	87,711
その他	7,190	6,860
固定負債合計	4,477,545	4,383,945
負債合計	9,432,342	9,173,489
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,051,974	1,051,974
利益剰余金	886,309	888,446
自己株式	△14,962	△15,009
株主資本合計	1,923,321	1,925,410
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	242,752	237,496
土地再評価差額金	2,694,340	2,694,340
評価・換算差額等合計	2,937,093	2,931,836
純資産合計	4,860,414	4,857,247
負債純資産合計	14,292,757	14,030,737

## (2) 四半期損益計算書

第1四半期累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自2021年4月1日 至2021年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自2022年4月1日 至2022年6月30日)
売上高	4,090,674	4,184,128
売上原価	<u>2,922,387</u>	<u>3,009,440</u>
売上総利益	1,168,286	1,174,688
販売費及び一般管理費		
販売費	920,758	917,618
一般管理費	211,168	210,852
販売費及び一般管理費合計	1,131,926	1,128,470
営業利益	<u>36,360</u>	<u>46,217</u>
営業外収益		
受取配当金	9,709	10,378
受取賃貸料	2,169	2,054
その他	1,540	1,680
営業外収益合計	13,419	14,113
営業外費用		
支払利息	6,976	6,251
その他	0	0
営業外費用合計	6,976	6,251
経常利益	<u>42,803</u>	<u>54,078</u>
特別利益		
固定資産売却益	1,860	612
特別利益合計	1,860	612
特別損失		
固定資産除却損	199	147
特別損失合計	199	147
税引前四半期純利益	<u>44,464</u>	<u>54,544</u>
法人税等	<u>10,060</u>	<u>21,009</u>
四半期純利益	<u>34,404</u>	<u>33,534</u>

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(不適切な会計処理)

当社は、「現場在庫」と呼ばれる棚卸資産(仕掛品及び原材料の一部)において不適切な会計処理が含まれている可能性が判明したため、社内調査を進めましたが、調査の過程において特定部門で、「現場在庫」の棚卸金額の著しい増加と、それを意図的に過大計上しているとの不正な会計処理がなされた疑いを確認しました。

これを受けて、当社は、2023年5月18日、不適切な会計処理の有無及び内容等の実態解明、再発防止策の策定等をし、株主をはじめとしたステークホルダーに対する説明責任を果たすことを目的として、外部有識者を委員に含めた特別調査委員会の設置を決定し、調査を進めてまいりました。

2023年7月27日に特別調査委員会から調査報告書を受領し、当社において、過去から一部の従業員による実地棚卸に基づかない棚卸報告がなされており、当該不正行為により仕掛品及び原材料残高が過大に計上されていたことの報告を受けました。

当社は一連の不正行為により計上された仕掛品及び原材料残高について、実際の仕掛品及び原材料残高への復元ができないことから、前事業年度末及び当第1四半期会計期間末の仕掛品及び原材料については、棚卸不正発覚後に実施した実地棚卸に基づいて算定した回転期間を用いて算定する方法によりそれらの残高を改めて算定しております。

(セグメント情報)

当社は、食品関連事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。